ある４歳児の音楽表現の特徴と変化

Characteristics and Changes in Musical Expression of a 4-Year-Old Child

山下世史佳
Yoshika　YAMASHITA
就実短期大学
Shujitsu Junior College

Key words:エピソード，音楽表現, 4 歳児

４歳児は一般に語彙が格段に増え，活動の幅や友達との関わりも広がってくる時期である。対象児は発表者の実子であり，母親が音楽に携わっていることで０歳の頃から音楽に触れる機会は多かった。対象児の４歳児は，生活の中でどのような音楽表現をし，その表現の仕方にはどのような特徴や変化が見られるのか。対象児のこれまで音楽表現の経緯を踏まえながら提示する。

目的

４歳児が日常で音楽表現する瞬間を捉え，どのような流れで起こるのか，表現はどのように変化するのかを明らかにすることを目的とする。

方法

音楽表現し始めたら，その様子をビデオに収め，その時のエピソードも合わせて記録する。エピソードを時系列に並べ，どのような変化を辿っているかを客観的に観察する。鯨岡峻のエピソード記述の方法を参考に記述していく。

結果

【事例１】４歳０か月「遊園地の汽車の乗り物に乗って」

遊園地の汽車の乗り物に乗り，他の乗客が皆乗り込むのを待っている間，写真を撮ろうとスマートフォンを向けたら突然歌いだした。

（横揺れでリズムを体でとりながらカメラ目線）

きっきっきっきっきっきしゃぽっぽー
きっきっきっきっきっきしゃぽっぽー
きっきっきっきっきっきしゃぽっぽー
きっきっきっきっきっきしゃぽっぽー
きしゃぽっぽわ～（首を振ってスマホの画面に急激に近づいて変顔）

【事例２】　４歳３カ月　「電子ピアノの前に座って」

お気に入りのいろいろな音に変えられる電子ピアノの前に座って自分で電源を入れ, 両手を３オクターブ離し, 左手は人差し指と中指，右手は親指と人差し指でトリルを弾き始めた。左手は「ファミ」，　右手は「レミ」音で両手は合っておらずバラバラだが, 音に耳を傾けながら, 何度も両手で弾いていた。次第に，曲のような旋律へと展開した。

【事例３】　４歳５カ月　「マイクをもって歌うこと」

高齢者施設で音楽療法をする母親に連れられて音楽療法に参加した。だんだんと母親が恋しくなり，静かな雰囲気も重なって，待ちきれずうろうろとするようになった。その後，母親がいる中心の位置に移動，１歳児から絵本の絵を見ながら母親と一緒に歌っていた「きらきら星」の１番を施設の入居者の前で，笑顔でマイクをもって歌うことができた。

【事例４】４歳８か月　「ダンスを鑑賞して」

大学のお姉さんたちのダンスの発表を見に行った。静かに所定の位置に座り，お姉さんたちのグループの発表を初めて鑑賞した。途中, 見ながら手を一緒に動かし, 発表を邪魔しないように小さな声で歌い，お姉さんたちのダンスや動きに夢中になった。最後にはお姉さんたちへのコメントを言うようにアドリブで振られ,「とても上手で，私も踊りたくなりました」と言った。

考察

対象児は１歳半で音楽に合わせて体を自在に動かし，３歳後半から既存の旋律を替え歌にしたり，「みかんの歌」等の自作の歌を作ったりした。４歳になっても自作曲を無意識に作ることは多々見られた。また，人前で発表する機会を得るようになり，事例３のように日ごろ歌っている歌を堂々と歌ったり，事例４のように自分の気持ちを大勢の人へ伝えたりできるようになっている。０歳から音楽に触れてきた経験が重なり，音楽に乗せて自己表現を自然にすることができるようになっていった。

参考文献

鯨岡峻『ひとがひとをわかるということ』, ミネルヴァ書房
鯨岡峻『エピソード記述入門　実践と質的研究のために』, 東京大学出版会
樫田美雄『ビデオ・エスノグラフィーの可能性』, 晃洋書房